



# カナダ・ミササガ市との姉妹都市交流 ～交流から紡がれる未来への絆～

愛知県刈谷市市民活動部市民協働課

## カナダ・ミササガ市とは？

ミササガ市はカナダ東部の五大湖の1つオンタリオ湖の湖畔にあり、カナダで6番目に人口が多い都市です。また、市内にはカナダ最大のレスター・B・ピアソン空港（トロント空港）があり、カナダの表玄関となっています。自然に恵まれた都市である一方、日系企業の進出などにより、現在の人口がミササガ市制施行当時（1974年）の約3倍に増加し、急速な発展を続けている都市でもあります。

この発展に大きく寄与されたのが、2014年まで36年間にわたり市長を務めたヘーゼル・マッキヤリオン氏です。マッキヤリオン氏は、80を超える日系企業を市内に誘致するなど日加間の交流を積極的に進めてきたことなどを評価され、平成26年春の叙勲において旭日小綬章を授与され、さらに2015年5月には、刈谷市で初の外国人市政功労者として表彰されました。

## 持続可能な交流の始まりと環境作り

交流のきっかけは1980年10月、ミササガ市の工場に勤務していた日本人の方から、刈谷市長宛に送られた一通の手紙でした。その手紙には「日本の都市と姉妹都市提携を希望しているミササガ市に候補として刈谷市を推薦した」旨が記されていました。成長著しい工業都市であった両市は、このメッセージを出発点として互いに

惹かれあい、わずか1年後に姉妹都市提携の調印を行いました。この姉妹都市交流の両市の目標は、それぞれの異なる点や多様性を自らのまちの成長につなげることであり、互いの考え方や文化を直接伝え合うことから始め、草の根交流の道標となることです。

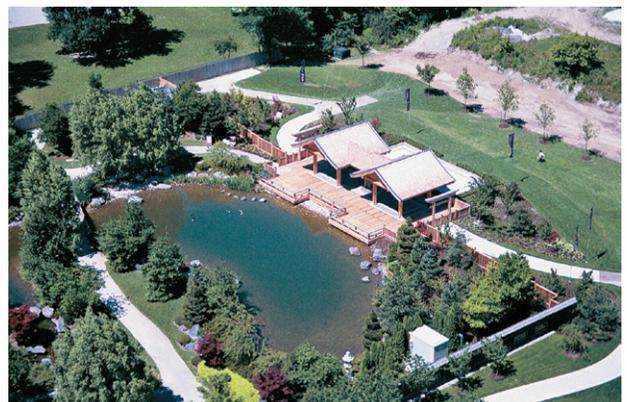
この目標の実現を目指し、両市で交流を継続・発展させるための窓口として、1983年に刈谷市国際交流協会（当時は刈谷市国際友好協会）、1993年にミササガ市友好協会がそれぞれ設立され、今日まで続く姉妹都市交流において中心的な役割を果たしています。また、刈谷市では地元企業からの寄附を契機として、1988年に国際交流の振興を目的とした国際交流振興基金を設置し、現在はこの運用益が事業原資の一部となっています。

こうして、両市の交流基盤が整えられました。

その一方で、ハード面においても市民が姉妹都市を身近に感じられるよう、1992年7月にミササガ市に刈谷市の名前を冠した日本庭園「カリヤパーク」がオープンしました。園内には緑が多く、桜や刈谷市の花であるカキツバタも植えられています。また、刈谷市でも2001年3月に「ミササガパーク」がオープンし、愛知万博終了後にカナダパビリオンから移設されたモニュメント「メープルリーフ」が設置され、公園のシンボルとなっています。



姉妹都市提携調印式



ミササガ市中心部に佇むカリヤパーク



## 協働により紡がれる絆

両市では市民による草の根交流の促進を目的に、33年間に延べ1,000人以上の市民が双方の市へ派遣されており、刈谷市からは姉妹都市提携以来毎年、市民団がミササガ市を訪れています。市民団は互いの市において1週間程度のホームステイを行いながら、滞在中に文化体験や自国の文化紹介イベントに参加しています。その結果の1つとして、刈谷市で派遣市民のOB・OGで構成された「ミササガ派遣市民の会」が生まれ、交流のさまざまな場面でご協力をいただいています。

両市が姉妹都市になってからの長い歴史の中で、愛知万博や姉妹都市提携周年事業、日加修好周年記念でのよさこい踊りのグループの派遣、高校間の姉妹校提携など、その関係はますます強く、幅広い層の結びつきへと発展しています。

愛知万博を契機に始まったストリートホッケー交流会は、毎年秋に刈谷市のミササガパークにおいて「東海日



ミササガ市友好協会およびミササガ博物館友の会からの義援金



表彰された子どもたちを囲むカナダ領事、刈谷市国際交流協会会長、刈谷市長

本カナダ協会」との協働で開催されています。これは、愛知県周辺在住のカナダ人と刈谷市民がカナダの庶民スポーツであるストリートホッケーを通じて、互いに理解を深める人気のイベントとなっています。さらに、市民団と同様に、概ね隔年の頻度でミササガ市から有志のストリートホッケー団が刈谷市を訪問するようになり、小学校で児童を対象にストリートホッケーの体験授業を行うなど、新たな交流へとステップアップしています。

2011年の東日本大震災の際には、被災地への支援をいち早く申し出ていただき、マッキヤリオン市長をはじめ多くの市民から届いた刈谷や日本を思う温かなメッセージはこれまでの交流による絆を改めて実感するものでした。

また、将来の交流を担う子ども達に姉妹都市への関心を持ってもらうため、在名古屋カナダ領事館と協働し、領事館開館20周年を記念して、刈谷市内の子どもたちによる絵画展を実施しました。多くの子どもたちが色鮮やかに表現したまだ見ぬカナダへの想いをいつか実現してもらうために、今後もさまざまな機会を提供できればと考えています。

このようにその時々にあった交流を両市の市民や関係する団体が互いに協力し合いながら実行に移すことで、強固な絆を紡いできました。

## 未来へ紡ぐ想い

姉妹都市提携当初より交換学生事業やスポーツ少年団の受け入れなど若い世代同士の交流にも力を注いできましたが、交流の裾野が広がっている中で、近年は高校生による姉妹都市交流が新たな展開をみせています。

2010年には、愛知県でも数少ない国際理解コースを持つ愛知県立刈谷北高等学校の生徒がカナダ・ミササガ市や世界について主体的に理解を深めるとともに、姉妹都市提携のあり方について考え、取りまとめるという試みを行いました。この取り組みがきっかけとなり、2012年にスティーブン・ルイス校（ミササガ市）との姉妹校提携が実現、姉妹校提携後はミササガ市に生徒派遣を行うなど活発な交流が行われています。

こうしたさまざまな取り組みが評価され、このたび本市は第9回自治体国際交流表彰を受賞しました。両市の交流の継続が両市民にかけがえのない幸福をもたらすことを確信して、次世代へと引き継いでいきたいと思います。